

はじめに

豊かな社会に育った子供たちの心の問題が注目されている中、「心の教育」の重要性が指摘されていきます。そして、その推進を図るために、道徳の時間の充実が強く求められています。

県教育委員会としては、鹿児島県のよさを生かした「心の教育」を推進し、郷土を愛する心豊かな子供たちを育てることを目指し、主として小学校高学年段階における道徳の時間における指導の参考となる資料として、この「ふるさとの心」を作成しました。

「ふるさとの心」には、身近にある感動的な実話や、郷土に生まれ育ち、文化、生活、福祉等の向上のために尽くした人物などを取り上げ、子供たちが共感をもって学べるようにしてあります。そのことが、おのずから道徳性を養うとともに、郷土に対する理解と愛情を培う契機にもなると考えております。

今回は、各学校における資料の作成や授業づくりの参考となるよう、資料毎の「指導例」を巻末に掲載しました。この「ふるさとの心」が、各学校において有効に活用されるときにも、子供たちや地域の実態に応じた創意工夫ある授業が展開され、本県における道徳の時間の指導が一層充実したものとなることを期待しています。

平成十一年三月

鹿児島県教育庁

学校教育課長

鈴木敏之